

外国人差別など 人権学習の学び発表

堀会館で桃映中生

福知山市北小谷ヶ丘、桃映中学校（二色浩幸校長）はこのほど、堀口の人権ふれあいセンター堀会館で、前期人権学習の成果発表会を開いた。代表生徒8人が訪れ、会館を利用する地域の人たちに、外国人差別やLGBTQ（性的少数者）についてなど、それぞれが学んだことを話した。



人権学習で学んだことを発表する生徒

を届け、修学旅行の学習報告会を行った。その縁から、学校での人権学習の様子を知ってもらおう発表会を始め、今年で2年目になる。発表したのは1〜3年生の各学級代表の8人。人権学習は6月と9月にあり、いじめ、認知症、同和問題などをテーマに学習してきた。

2年の堀口瑠奈さんは外国人差別については「新しいクラスメートの性格を先入観で判断し、うまくないことができなかったが、勇気を出して話しかけてみると仲良くなれた」と自身の経験談から切り出した。外国人に対しても固定観念や先入観で日本人側から壁を作っていると、堀会館の藤田寿啓館長は「学校での学びが分かる良い発表でした。まず知ることが大事で、何にでも興味を持って行動に移せるようにしてほしい」と話

令和5年10月6日（金） 両丹日日新聞